発信する学生の工夫

科技コミ！ 第4回 学生の活動

課題を乗り越え、研究を自ら発信する学生がいる。

◇

科学と音楽。一見無関係なこの二つをつなげたのは六本木で07年7月に行われたクラブイベント「サイエンスクラブ」だ。宇宙をイメージした音楽や映像が流れる中、宇宙飛行士候補のアニリール・セルカン助教（工学系研究科）をゲストとした対談が行われた。当日は盛況で、入場者は延べ約360人に上った。

実行メンバーには理系の大学院生に加え、DJなど音楽関係者も集めた。「科学を楽しむのに必要な視点を組み込めたのではないでしょうか」と当時のメンバー、竹沢悠典さん（08年・理学系博士課程修了）は語る。

次の活動は未定だが、スポンサーの獲得や科学館との協力などを視野に入れているという。「前例の無い形式の科学技術コミュニケーション活動でしたが、効果は上がりました。これに触発されて新しい活動がもっと出てくれれば」（竹沢さん）

◇

東京大学アウトリーチイニシアティブ（UtoI）は学内外のアウトリーチ活動の統合に挑む。07年に東大主催の学生企画コンテストで優秀賞を獲得した。

現在着目しているのは、研究者が活動の広報をする手間を割けないため、イベントに人が集まらないケース。そこでUtoIは活動の情報をまとめたポータルサイトの開設を試みている。3人のメンバーとコンテストの賞金の200万円という限られた人手と資金を最大限に生かす。

メンバーは総合文化研究科の科学技術インタープリター養成プログラムで知り合った。専門の異なる人々と出会い「他人の研究でも、面白いものを伝えていければと感じました」とリーダーの林洋平さん（総合文化・博士3年）は話す。

◇

出前授業で生徒との年齢の近さを生かすのは、吉井譲教授（理学系研究科）が理事長を務める特定非営利活動法人（NPO）サイエンスステーション（SSS）（http://sciencestation.jp/）だ。対象は中学生から大人までと幅広く、創設以来28回の実績を誇る。

05年には、当時極めて珍しかった学生を講演者としたサイエンスカフェをその後のブームに先駆けて実施した。

現在の中心メンバーは、日本でアウトリーチ活動が広まり始めた05年前後に活動を始めた世代。後進の育成が今後の課題だ。SSSでは、出前授業の1カ月前から行う授業の講習会や、年1回の合宿でノウハウ伝達を図っている。

メンバーの大半は大学院生。活動には指導教員の理解が欠かせない。学内で活動場所を確保する時は、教員の許可が必要になることが多い。「活動を行う団体が自由に使えるサロンなどがあれば」と榎戸輝揚さん（理学系・博士2年）は語る。

活動のフィードバックが研究に生きるという。「日々細部の研究をする中で、一般の人と議論する機会を持つことによって全体像の中で自分の研究を位置付けることができ、研究に展望が開けます」と藤原英明さん（理学系・博士2年）は語る。

◇

次回は、アウトリーチ活動の先駆者たちに迫る。

（荒井 洸）

守屋高校で08年1月に行われた出前授業（サイエンスステーション提供）